

1.2 河川の概要

鹿乗川流域は、鹿乗川と支川の西鹿乗川からなる。

表-2 鹿乗川流域の河川

河川名			流域諸元	
本川	一次河川	二次河川	河川延長 (km)	流域面積 (km ²)
鹿乗川			16.0	44.36
西鹿乗川			7.4	12.92

【鹿乗川】

■ 鹿乗川上流区間

上流端から西鹿乗川合流点での川幅は、JR 東海道本線横断部 (13k084) までは約 10m、JR 東海道本線下流から東鹿乗橋 (10k800) までは約 30m、東鹿乗橋 (10k800) から西鹿乗川合流点までは約 20m である。上流区間では全区間で有堤河道となっており、最大比高は約 2m である。河床勾配は約 1/1,700 となっている。河道内の法面には植生がみられる。

背後の土地利用は、14k000～11k600 区間では主に市街地が広がり、その他の区間では主に水田が広がっている。



写真-4 まきうち 牧内橋付近 13.1km
(上流望む)



写真-5 JR 東海道本線横断部
13.0km



写真-6 東鹿乗橋付近 10.8km
(上流望む)



写真-7 西鹿乗川合流点
9.0km

■鹿乗川下流区間

西鹿乗川合流点から県管理区間下流端の川幅は、木戸樋門（6k200）までは約 30m であり、木戸樋門（6k200）から県管理区間下流端（3k600）までは河道拡幅が実施されており約 40m である。西鹿乗川合流点から木戸樋門（6k200）までは左岸は有堤、右岸は掘り込みとなっており、左岸の最大比高は約 5m である。木戸樋門（6k200）から県管理区間下流端（3k600）では左右岸ともに掘り込み河道である。河床勾配は、西鹿乗川合流点から木戸樋門（6k200）までは約 $1/1,700$ で、木戸樋門（6k200）から県管理区間下流端（3k600）までは $1/10,000$ 以下の緩勾配となっている。河道内の法面には植生がみられる。

背後の土地利用は、西鹿乗川合流点から木戸樋門（6k200）までは左岸に湛水防除水路が併走し、その先には水田が広がっている。右岸は市街地となっている。木戸樋門（6k200）から 4k600 付近までは左右岸ともに主に市街地が広がり、4k600 付近から県管理区間下流端（3k600）では左右岸ともに水田が広がっている。3k600 から矢作川合流点の区間は国管理区間で、矢作川本川と導流堤を隔てて併走している。



写真-8 あきばしも
秋葉下橋付近 8.5km
(下流望む)



写真-9 木戸樋門付近
6.2km



写真-10 にしだ
西田橋付近 4.0km
(上流望む)



写真-11 県管理区間下流端付近
3.6km

【西鹿乗川】

西鹿乗川の川幅は、上流端から 2k600 付近までは約 5m であり、2k600 付近から勢井前川合流点（1k200）までは約 10m、勢井前川合流点（1k200）から鹿乗川合流点までは約 20m となっている。上流端から 5k000 付近までは、左右岸ともに掘り込み河道、5k000 付近から 4k000 付近までは左右岸ともに有堤河道で最大比高は約 1m となっている。4k000 付近から 2k400 付近までは左右岸ともに掘り込み河道、2k400 付近から鹿乗川合流点までは左右岸ともに有堤河道で最大比高は約 2m となっている。河床勾配は、上流端から 6k400 付近までは約 1/2, 500、6k400 付近から 4k600 付近までは約 1/200 と急勾配になっており、4k600 付近から鹿乗川合流点までは約 1/1, 000 となっている。河道内の法面には植生がみられる。

背後の土地利用は、6k600 から 4k600 までの区間で市街地が点在している他は、主に水田が広がっている。



写真-12 西鹿乗橋付近 2.4km
(下流望む)



写真-13 新幹線横断部付近
0.5km